

(公社)埼玉県介護老人保健施設協会
会長 小川郁男 様

施設名 ナーシングホーム和光
氏名 吉田 五月

研修会報告書

研修会名	平成29年度 第2回 看護部会研修「フィジカルアセスメント」				
日時	平成29年9月28日 10:00～15:30				
会場	埼玉県県民活動総合センター セミナーホール2				
講師	さいたま赤十字病院 集中ケア認定看護師 吉田 淳子さん				
参加人数	59名(研修委員5名含む)				
研修委員 (氏名・施設名)	小山 広美:秋桜 名久井 瞳:なでしこ 丹野美佐子:高齢者ケアセンターゆらぎ 岡田経子:あさひヶ丘 吉田 五月:ナーシングホーム和光				
研修会のテーマ	「フィジカルアセスメント～老健での観察の視点を持つ～」				
研修会の評価	アンケート回収枚数	51 枚		3. グループワーク	3.9
	1. 研修内容と目的の一致	3.9		4. 研修会の進め方	4
	2. 講義に対する評価	①	4 / 5	～総合評価点～	5
		②	/ 5		16
③		/ 5	20		
④		/ 5			
総 評	(研修会開催後の反省会での内容や研修委員としての感想等を記述)				
	<p>今回は「見逃してはいけない出来事」に素早く気づき、適切な対処に結びつけるためのフィジカルアセスメントを理解し、効果的にケアに繋げるという目的のもと講義していただいた。</p> <p>フィジカルアセスメントとはから始まり、急変には前徴候があり、急変に結びつく症状を「キラーシンプトム(=死の徴候)」という言葉があるということを知った。この言葉を初めて聞いたという声が多くきかれた。また、高齢者の特徴から、症状・経過が典型的ではないため、「いつもと違う」「何となく様子がおかしい」といった変化を見逃さないことが大切となる。</p> <p>グループワークでは、事例をもとにキラーシンプトムを見つけ出し、どう対処するか(様子を見る? Dr報告? 受診?)など意見交換した。施設によっての違いがあるため難しい点もあったが、活発に意見が出されていたと感じた。</p> <p>対象者は看護職以外の方も積極的にとなっていたが、看護職が大半を占めるかたちとなってしまった。看護職以外の職種の方からは「言葉などとてもわかりやすく勉強になった」や「介護でもわかるような病気の内容を入れてほしい」といった声があり、看護職からは疾患や症状観察についての掘り下げた内容を希望する声がかかれ、幅広い職種に対応した内容を検討する難しさを実感し、今後の活動に活かしていきたいと思う。そして老健の役割である在宅復帰を推し進めるために、継続した医療や安全が提供できるようにしなければならないため、我々研修委員はその一助となれたらと考える。</p>				

* アンケート結果の詳細については、別紙添付資料「研修会アンケートのまとめ」を参照。